実践報告

2022年度におけるスチューデント・インターンシップ活動報告

北 川 浩 子

要　旨

城西大学では坂戸市とのスチューデント・インターンシップ事業に関する協定書が締結されて以降，市内の小・中学校における児童生徒の学習及び生活指導等の教育活動の指導に対する教師の補助として活動する場が学生に提供されている。2022年度は新型コロナウイルス感染症が収束したことにより１年間を通して活動できるようになり，経済学部１名，経営学部１名，理学部化学科３名，理学部数学科13名の計18名が小学校４校と中学校４校に配置された。様々な教科の授業，朝の会，清掃活動や部活動などの児童・生徒との関わりだけでなく，職員会や授業の資料作り等の教員組織等に関わることができ，学生の教員になるというモチベーションの向上に大きく貢献したことを示した。

キーワード：学校インターンシップ，教員養成，資質向上，アクティブラーニング

１．はじめに

「これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について～学び合い，高め合う教員育成コミュニティの構築に向けて～」答申（平成27年12月21日，中央教育審議会）において「学校インターンシップや学校ボランティアなどの取組みは学生が長期間にわたり継続的に学校現場等で体験的な活動を行うことで，学校現場をより深く知ることができ，既存の教育実習と相まって，理論と実践の往還による実践的指導力の基礎の育成に有効である。また，学生がこれからの教員に求められる資質を理解し，自らの教員としての適格性を把握するための機会としても有意義であると考える。」と提言されている。また，学校インターンシップの実施については既存の教育実習との間で役割分担の明確化を図るとともに，その円滑かつ確実な実施に向けて，受入れ校の確保や実施内容の検討等のための教育委員会や学校と大学との連携体制の構築，大学による学生に対する事前及び事後の指導の適切な実施，学生側と受入れ校側のニーズやメリットを把握するための情報提供の実施など，環境整備について十分に検討することが必要であることから，教職課程での位置付けは各大学の判断により委ねられた。それにより，今日では学校ボランティアや学校インターンシップへの取組みが多くの教員養成大学で様々な形態で行われている。

さらに，中央教育審議会は「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す，個別最適な学びと，協働的な学びの実現～ 答申（令和３年１月26日）において「令和の日本型学校教育」の在り方を定義した。それを実現するために「GIGA スクール構想」及び「少人数によるきめ細かな指導体制」の整備を進め，今後は「教職員の養成・採用・研修等の在り方」が更に検討を要する事項としている。それをうけ，令和４年12月19日に公表された『令和

の日本型学校教育』を担う教師の養成・採用・研修等の在り方について～「新たな教師の学びの姿」の実現と，多様な専門性を有する質の高い教職員集団の形成～答申（2021年，中央教育審議会）において「令和の日本型学校教育」を担う教師に求められる資質能力の中で，「教育実習」等の在り方の見直しが考えられている。その見直し案として通年で決まった曜日などに実施する教育実習や，早い段階から「学校体験活動」を経験し，教育実習の一部と代替する方法を示している。この様なことから「学校体験活動」の組織的な取組みはさらに重要になってくることが考えられる。

この報告では学生が教育現場を体験することによって，どのようなことを学び，考え，何を習得したのかなどを示し，スチューデント・インターンシップのあり方や意義について考察する。

２．スチューデント・インターンシップの実施について

2022年度のスチューデント・インターンシップの応募は例年より２ヶ月早い前年度の２月のオリエンテーションで行った。18名の応募があり表１に示すように配置された。５月連休明けにスチューデント・インターンシップ担当教員の方との配置校での年次計画等の打合せが行われる。その翌週から翌年の１月までを実施期間とし，毎回配置校に出勤簿と実習日誌を提出している。表２に文系・理系学部別の平均回数と時間を示した。回数は文系より理系学部が多いが文系学部が１回の活動時間が長いことを示した。理系では必修の実験や演習等により１回の活動時間が限られており，毎年この傾向にある（北川，2021）。

３．スチューデント・インターンシップ活動について

３．１　日誌による活動報告

城西大学では開講当初よりスチューデント・インターンシップでの活動内容を日誌に記載し，活動終了後提出させている。形式は教育実習日誌とほぼ同じであり，「指導教諭の批評」の欄があることから，先生方から励ましの言葉や教育に対する考え方などのコメントをいただいている。その例をいくつか紹介する。

・特別支援学級に配置された学生の日誌には，考

表１　スチューデント・インターンシップ受入れ校とその人数

	経済学部 経済学科	経営学部 マネジメント 総合学科	理学部 数学科	理学部 化学科	合計
坂戸小学校				1	1
大家小学校				1	1
城山小学校			2		2
南小学校			2		2
坂戸中学校			3		3
城山中学校			3	1	4
浅羽野中学校		1	3		4
若宮中学校	1				1
合計	1	1	13	3	18

表２．活動回数及び時間について

	文系学部	理系学部
平均回数	15	18
平均時間	123	72

えさせる時間やグループワークの時間を多く取っていることなど特別支援学級での学習の方法がとても勉強になったことが記されており，それに対して「近年，特別支援学級が増える傾向にあり，それはつまり，特別な支援を要する生徒が増えていることになります。国立教育研究所のHPに生徒指導リーフレットシリーズがあり，特支のこどもの理解を深められるかもしれないので，一読してみてください。」というコメントをいただいている。

・数学の授業でレポート作成を行った授業について数学の理解を深めるための効果的な授業であることを感じたことが記されており，それに対して「自ら考え，自らの言葉でまとめることは学校だけでなく社会に出てからも必須の能力です。今回はレポートという形でしたが，こうした力を伸ばすために教師としてどのような方策を立てられるか考えてみてください。」というコメントをいただいている。

・総合的な学習の時間の「環境問題について」を扱う授業で，児童がインターネットを使用して様々な環境問題を調べパワーポイントで発表する様子から生徒たちのそれぞれの工夫や先生の対応の仕方を記した日誌には「現在，GIGAスクール構想によるICTの効果的な活用が課題となっています。自分の考えや思いをわかりやすく伝えるために活用することは大切なことです。この数年でかなりの授業での活用方法も確立されると思います。ぜひ情報をたくさん集めてみてください。」というコメントをいただいている。

・いろいろな教科や特別支援学級などを体験でき大変勉強になったことを記したスチューデント・インターンシップ最終日の日誌には，「１年間ありがとうございました。当初より１つ１つの仕事に前向きに取り組んでいただき大変助けられました。学校の仕事は教科と学級をメインに置きながら，子供たちが“当たり前に過ごせる時間・環境”を作るため，見えない仕事も多くあります。そうした仕事もすべて子供たちの成長のためであることを少しでも学び，やはり前向きに今後の大学生活を送っていただければ幸いです。いつか同僚になることがあればまたよろしくお願いします。今後のご活躍を応援しています。」というコメントをいただいている。

このようにインターンシップ生に対して「どの授業に入ってもらった方が良いのか」「学びに対しての評価」「考えることへの問いかけ」など，様々な視点で個々の先生だけでなく，学校全体として，大学生を教育していただいていることとが伝わってくる。学生達は先生方からの言葉や声掛けにとても励まされていると同時に教員を目指す上で何をしなければいけないかを考える良い機会となっている。

３．２　発表会による活動報告

履修者は前期活動終了後，後期活動終了後に報告会を行っている。形式は問わないが学んだこと，反省点，疑問に思ったことなどについて５分程度で発表しており，それらの一部を下記に示す。

前期報告会（７月）

・小学校に参加してどの先生方も板書が綺麗で，高校や大学の板書とは全く異なった丁寧な板書をされていました。45分授業の難しさ，何かいつもより１つ少なくすると時間があまりすぎる。５分の調整がとても難しいと学びました。

・前期の実習を通して，児童に対しての伝え方に

ついて多くの学びがありました。個々の性格を理解して，一人ひとりの児童に合った伝え方を考えることの重要性。特に年齢に応じた言葉選びが非常に難しく，児童に“伝わる”伝え方の重要性を肌で感じ，学ぶことが出来ました。

・大事だと思ったことはちょっとの変化も褒めること，生徒の状態・ニーズを考慮した授業をすること，わかりやすさだけでなく集中させる技術である。

・実際に教える時，わかりやすいように教えるにはどう伝えたらいいかなど色々考えました。教えることの大変さや難しさを実際に感じました。

・学校は生徒間の友情や先生の生徒への愛をたくさん感じることができるとても温かい場所だなと思いました。教師という仕事は大変なこともたくさんありますが，子供たちの喜んでいる姿を見るためなら頑張れるなと思いました。

・スチューデント・インターンシップを始める前は「教員を目指すうえで今の自分に何が足りないのかを知りたい」という思いがありました。前期を終え，今の自分自身に足りないと思ったことは，「教える事」だと感じました。それが後期の課題です。

後期報告会（１月）

・授業をするということは，生徒の目の前で教科を教えることだけではなく，全体の進度やクラスの雰囲気も考え，準備が必要だとわかった。学校における教育の難しさ，その他問題点について今回上手く出来なかった部分を２年後の教育実習に活かしていきたい。

・前期に比べ，自分自身に興味を持って話に来てくれる事が増えた事が嬉しかった。自分に質問してくる子もいて信頼してもらえたことが良かった。授業の補助が中心の活動だったが，実際に学校という所に入り，受験を控えている子どもたちの空気感や行事前の雰囲気を感じ，そのような子達の支えに少しでもなれた事が貴重な体験だった。

・私がこの１年間を通して考えたことは，教師という仕事に必要なこととやりがいについてです。教師になった際は全員とたくさんコミュニケーションをとって１人１人のことをしっかりと理解してあげられるように頑張りたいです。児童が喜んでくれたときはとても嬉しかったです。そのためには何ができるのかを考えたりしてモチベーションアップにつながりました。教師になってもっと子どもが喜んでいる姿をたくさん見たいなと思いました。

・担当科目のみならず，専門以外の学識も必要となり，教育技術の必要性や教師としての責任を実感することができました。スチューデント・インターンシップは，教育者として生徒への教育に対する見識の大切さを認識する場になりました。

・教育現場における教師としての姿勢や，子どもたちとの関わり方等，多くのことを学ぶことができた。「教師」という仕事の大変さを実感した一方，子どもの成長や子どもに元気をもらえること等，教師の仕事にやりがいを感じるところもあった。理想の教師像に近づく為に，今回のインターンシップで学んだことをもとに努力し続けていきたい。

前期の発表会では活動できたこと，できなかったこと，後期に向けての心構えを中心に発表している。多くの学生がこう教えればよかった，話しかければよかった，など１つ１つの行動を反省し，後期につなげていくコメントをしている。それによって１年間を通して活動した後期報告会では今後の自分に対するエールを送っているようなコメントが多く見られた。

３．３　アンケートについて

全ての活動が終わった段階で坂戸市教育委員会

の作成したアンケートへの回答を表３，４に示した。全ての学生が参加してとても良かった，良かったと回答している。また，教職にぜひ就きたい，就きたいと回答した学生が91％で，先生になりたいという目的やモチベーションが強くなった学生がいる一方で，良い経験であったが，自分には向いていないのではないかと考える学生がいることを示した。

城西大学ではスチューデント・インターンシップは基本１年を通して行うことを推奨している。大学の時間割を考えると１回に行かれる時間が限られてしまうことから単位認定に見合った時間を確保してもらうために長期に行ってもらうということもあるが，時間をこなせば短期でも良いとしてはいない。年間を通して学校に携わることにより，１年を通してでないとわからない学校の姿をきちんと観るためでもある。それによって季節の移り変わりと共に学校の一員であることの自覚が芽生え，将来どうあるべきかを考える有意義な時間となっていると思われる。

３年ぶりに通年を通して行うことができたが，例年のようなアナウンスができなかったことなど反省することがあった。坂戸市教育委員会，坂戸市内の小学校，中学校の全教職員やご父兄の協力があってこそ続いている事業であり，学生を育てる機会を与えていただいていることに感謝している。今年度の反省を活かし，学生が一人でも多く教員になりたいと思えるように努めていきたい。

表３．総合的に考えて参加して良かったと思いますか（％）

とても良かった	45
良かった	55
どちらとも言えない	0
良くなかった	0

表４　この事業に参加して，教職に就きたいと思いましたか。（％）

ぜひ就きたい	64
就きたい	27
どちらかといえば就きたくない	9
就きたくない	0

参考文献

中央教育審議会（2015）これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について～学び合い，高め合う教員育成コミュニティの構築に向けて～の答申
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1365665.htm

中央教育審議会（2021）「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す，個別最適な学びと，協働的な学びの実現～ 答申
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/079/sonota/1412985_00002.htm

中央教育審議会（2022）『令和の日本型学校教育』を担う教師の養成・採用・研修等の在り方について～「新たな教師の学びの姿」の実現と，多様な専門性を有する質の高い教職員集団の形成～答申
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/079/sonota/1412985_00004.htm

北川 浩子（2023）2021年度におけるスチューデント・インターンシップ活動報告．教職センター紀要　第７号，p. 33－38.